

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六・（公衆）〇四七二二七・七二〇七

# 雇用安定協約 暴挙の暴棄

# 「三本柱」への非協力が 不当にスト決起を口実として

## （動労千葉・国労）国鉄労仲運動解体攻撃を オニ波・オニ波の反撃をうけた

国鉄当局は十一月三十日、国労・動労千葉、全動労に対し、雇用安定協約を再締結しないと通告してきた。その理由は、国労に対しては三本柱に未だに非協力的であること、動労千葉に對してはストライキを行ったからだというのである。ふざけるんじゃない。しかし、これで敵の狙いが満天下に明らかになった。国労・動労千葉破壊をもって国鉄労働運動を丸ごと解体することなどということはどうして許せるか。第二波・第三波のストで断固闘いぬこう。

### ストを口実とした協約破棄に 第二波・第三波で反撃を

十月三十日、当局が行った動労千葉に対する口頭通告は「雇用の安定等に関する協約については、労使間の団体交渉で論議していくのが当然である」と思っている。しかるに貴組合においてはストライキという違法行為に解決の手段を求め、従って貴組合との間には十二月一日以降の雇用安定等に関する協約を再締結する状況には全くないと判断する」と言うものである。これが怒りなしに読めるか！

雇用安定協約について当局がいつ団交に応じたのだ。この間、労働条件に伴わる重要問題についてさえ団交に応ぜず団交を拒否・否定する違法行為を繰り返してきたのは誰だ。よくもぬけぬけと違法ストなどと言えたものだ。しかもそれを理由にするというデタラメを絶対に容認することはできない。

### 国労つぶしこそ当局の狙いだ

国労への対応を見れば、敵の狙いは鮮明である。国労中央が当局の恫喝に屈し、十月十九日～二十日の中央委員会で三本柱の運動「行かない、やめない、休まない」をやめると表明し、動労千葉のストに對してもスト破りを指示し、当局にこびを売ったにもかかわらず、当局は、①三本柱の運動をやめたことは評価する。②しかし下部へ徹底していかない。従って現在のところ結べる状況にない。とすげない返事、それどころか「国労から要求あれば交渉には応ずるが、出向などの過員調整策（三本柱）への協力は分割・民営化への時期がせままっているなかではすでに再締結の条件にはなり得ない」とまで言いきっているのだ。完全に当局に定められているではないか。まさに当局は国労に對し、徹底的に屈服せよとせまっているのである。われわれが指摘してきたように、一步後退したら百歩下がることを強要されるのだ。

### 奴隷の道を拒否し

#### ストライキに決起した

しかも当局は、国労中央の動揺を横目でにらみつつ、配転協定の再締結をめぐる「本人の意志に反する免職・降職は行わない」という規定を削除したいと提案してきた。当局は、雇用を恫喝に国労を徹底的にたたき、丸はだかにし、さらに地面に頭をこすりつけよ、とせまっているのである。これほど卑劣かつすさまじい労働組合破壊攻撃があるか。

国労の仲間よ、ここまで言われてそれでもだまっているのか。だまっけても首、反対しても首というのだ。国労中央は、ここまで言われてなお「三本柱の運動を全面的に中止し、改めて協定の再締結を求める」との方向を打ち出している。このままでは国労は解体され、国鉄労働運動がつぶされてしまう。われわれは、分割・民営化攻撃の狙いがここにあるからこそ、あえて今、首をかけたストライキで決起した。労働者として、人間としての尊厳をかけ奴隷の道を拒否したのだ。われわれは当局のいかなる弾圧、動労「本部」革マルのスト破り、国労中央指導部の屈服・無方針・裏切りをもはねのけ、第一波闘争の成果をひきつぎ、第二波・第三波と勝利するまで断固闘いぬく。

## 不当処分許すな！ オニ波ストの

偉大な成果をうち固め、中曾根・杉浦体制打倒！ 10万人首切り攻撃粉碎にむけ、オニ波・オニ波で反撃を、

### 当面する主なスケジュール（12月上旬）

- 6日 オニ波回支部代表者会議（13時～）
- 6日 サークル協テニス大会（9時、更科コート）
- 9日 オニ波スト総括集会（18時、千葉市民会館）
- 11日 顧問弁護団会議（18時、会館）
- 14日 新小岩地区集會（主催：新小岩支部）
- 16日 オニ波13回定期委員会（10時、県教育会館）